営業本部

る大橋隆行さん。さまざまな職種の経会社に入社し、営業本部で部長を務め2008年(平成20年)に旭紙工株式 んに、これまでのご経験やお仕事への験を活かして会社に貢献する大橋さ 私のことを知ってくれていたそうで ていました。面識はなかったものの、 ており、旭紙工からも仕事を受注し ある前職で、私は外注発注を担当し けていただき入社しました。同業で 最初は折り部門に所属し、現場で 前職を退職後、橋野社長に声をか

教えてください

入社からこれまでのご経歴を

思いを伺いました。

刷様や凸版印刷様、佐川印刷様など、 2018年の12月末からです。現在 は営業本部の部長として、大日本印 営業本部に配属されたのは、

理本部の部長も兼任しました。

長を任されることに。同時に生産管

り部門の責任者を経て、本社の工場

機械を動かしていました。その後、折

大手の得意先を担当しています。

印象をお持ちでしたか。 旭紙工に対し、当初はどんな

思ったのを覚えています(笑)。みん 仕事をするような社員が多く、「とん くなりました。 今では遅くまで仕事をすることはな でもない会社にきてしまったな」と なで効率化や働き方について考え、 入社したばかりの頃は、夜中まで



こなせましたし、2番手の社員が急 成長するというメリットもありまし に導入してみると、通常通り業務を なと思っています。 も続いており、実現させてよかっ ましたね。リフレッシュ休暇は現在 た。部門長一人が休むだけで、こんな 対意見もありました。それでも実際 めば部下に負担がかかる」などの反 ろん「人手が足りない」「部門長が休 を取ることを実施したのです。もち か月間で、社員全員が1週間の休み シュ休暇の導入です。7~8月の2 に社内の雰囲気が変わるのかと驚き その中で印象的なのが、リフレッ

いてお聞かせください。 記憶に残っているお仕事につ

切磋琢磨できたのが功を奏したのだ 瓜破工場)の工場長と協力しながら やり遂げました。「なんとかなる」と をつくるという大仕事で、本当に苦 ことです。約2か月で3200万冊 とき、国からの委託であるマイナン と思います。 いう気持ちを常に持ち、工場同士が しかったですが、東大阪工場(現在の 本社工場の工場長を務めていた ーのパンフレット作成に携わった

> げ、今度は本社工場が9500冊を 6000~7000冊をつくるのが当初の想定では、1時間に で伸ばすことができたのです。 出し……最終的に、12000冊ま 大阪工場が回転を9000冊まで上 限界だとされていました。ですが東 想定では、1時

ないですね。 を超える仕事には、まだ出会ってい 上げを大きく更新できました。これ に合いましたし、1台あたりの売り 械を動かし続けた結果、納期にも間 回転数を伸ばし、24時間体制で機

り失敗してしまうこともあったので えたのですね。反対に、忙しさのあま 皆さんで一丸となって乗り越

長がお客様のもとに謝罪に伺う事態 続いてしまいました。営業担当や社 わるカレンダーの製造が、12月まで 品不良も重なり、本来は11月末で終 遅れが頻発してしまったのです。製 が、生産管理での段取りが悪く、納期 ました。生産管理本部の部長と本社 となり、本当に反省しました。 工場の工場長を兼任していたのです ンに、お客様に迷惑をかけてしまい 2017年のカレンダーシーズ

> れず、感謝と謙遜の気持ちを忘れな 輩たちには、目の前のことにとらわ りの人やお客様がいるからこそ。後 だと思います。仕事ができるのは周 あげている」と天狗になっていたの です。日々の仕事が忙しく、「やって ちを忘れてはいけない」ということ いでほしいと伝えたいです。 そのとき感じたのが、「感謝の気持

ください。 最後に、今後の目標を教えて

20億円の売上目標を達成したいで る私の使命です。目標を必ず達成す るという思いを強く持ち、いつかは 売り上げを出すのが、営業であ

ないですね。 売り上げを出す工夫をしないといけ た。その中で頭を使い、なんとかして 仕事を断るケースも出てしまいまし 人手不足もあり、20 8年度は

がっていくはずです。 それが、会社のさらなる成長につな 見を出してほしいと思っています。 場に関係なく、とにかくいろんな意 社です。売り上げを伸ばすには、み んなの力が必要です。だからこそ、立 旭紙工はまだまだ、発展途上の会



経験と強い思いで、今後も会社業に奔走する大橋さん。幅広い を牽引していきます。 旭紙工の発展を願い、今日も営

企業情報

◆創 立 年:1983年1月 ※創業:1963年

商:15億円 ◆年 ◆従業員数:200人

※ 2018年12月実績

The FOCUS

瓜破工場 中綴部門 編







業務内容

折丁を重ねて丁合し、針金で綴じ込んで製本しています。 パンフレットやカタログ関係が中心です。メンバーは昼勤が 22 名、夜勤が 18 名。比較的大所帯の部門ですね。



強み

中綴は複数人で行う仕事が多い部門です。たとえば、折り部門では1~2名のところ、中綴部門は3~4名が同じラインで作業します。一人ひとりに役割が与えられていますが、周りの様子を見て、もし誰かが間に合っていなければ「ここは手伝わなければいけない」とプラスアルファの作業をしてくれる人が多いです。お互いに気遣いができ、協力し合いながら働くことができているのは強みだと思います。









取り組み

現場の環境を良くするべく日々取り組んでいます。外国の方もいますので、コミュニケーションは大切にしていますね。些細なことではありますが、朝は笑顔で挨拶する、暗い顔をしている人に声をかける、などです。私が率先して明るく接し、みんなが笑いながら働けるような職場にしていきたいと思っています。この取り組みが功を奏しているのかは分かりませんが、徐々に明るい雰囲気になってきているのではないでしょうか。

思い出深いエピソード

印象的なエピソードがあるわけではないのですが、常日 頃からメンバーには助けられていますね。繁忙期になると、 中綴部門は日曜出勤をしなければいけない日が少なくあり ません。内心思うことはあるはずですが、嫌な顔ひとつせ ず出勤してくれる人がほとんどなので、非常に助かっていま す。

中綴部門

紹介したいメンバー

中西 正人さん



屋勤の主任を務めている方です。中綴の機械には様々な種類があり、そのほとんどを扱うことができます。全て使いこなせる人はあまりいないので、中綴部門でトップレベルの実力者ではないでしょうか。天才肌というわけではありませんが、頑張って仕事を覚え、スキルを身につけてきました。少しは頑張り屋な一面もあると思います(笑)

中綴部門の夜勤を支えてくれています。アルバイトとして働いていた時期を含めると、社歴22年の大ベテラン!中西くんと同じく、ほぼ全ての機械を扱うことのできる貴重な存在です。努力家で、内に熱いものを秘めています。少し抜けているところもありますが(笑)、いざという場面では活躍してくれる、心強いメンバーです。

中 賢彦さん





目標

休日を増やすのが目標です。以前は日曜出勤をしてもらっても代休を渡せないことが多々ありました。そのため、2017年ごろから全員同じように休みを提供するという取り組みを進めています。メンバー全員が等しく高いスキルを持っていれば、交代で休みを取ることができるようになるはずです。徐々に改善しつつありますが、今後は社員のスキルアップにも注力し、より休みを充実させたいと考えています。